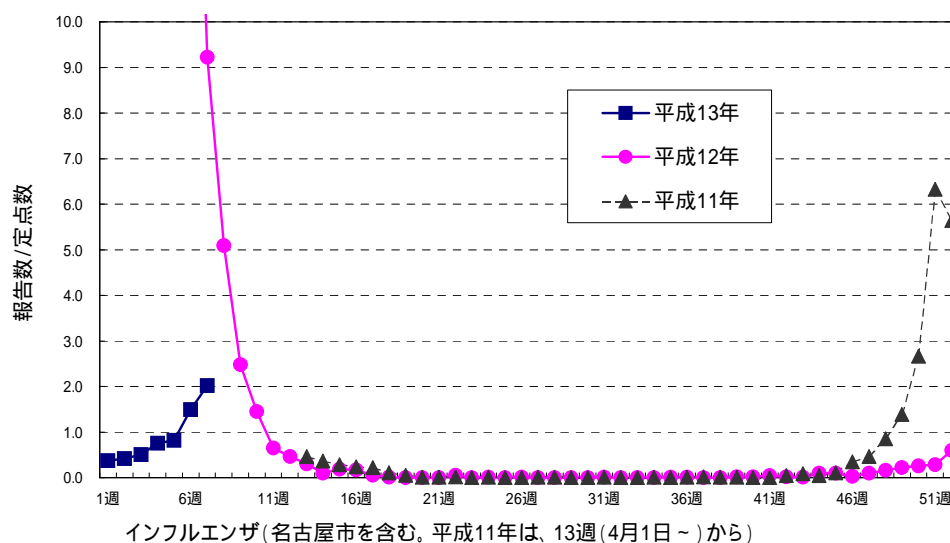


愛知県感染症情報

平成 13 年第 7 週（2 月第 2 週）

（コメント）

インフルエンザは、先週に引き続き流行のきざしが見られますので注意してください。集団かぜによる県内で最初の学級閉鎖が、一宮地区から報告されました。感染性胃腸炎、A群溶血性連鎖球菌咽頭炎は、依然として報告数の多い状況が続いています。



（先生方からのコメント）

● 尾張西部地区

- ・ ディレクティジェンFluA*（±）、シンメトリル**効果あり。6歳男。ディレクティジェンFluA（±）、ワクチン歴あり シンメトリル効果なし 5歳男

（一宮市 あさのこどもクリニック）

注）ディレクティジェンFluA*：A型インフルエンザウイルスを検出する迅速診断キットの一種。

シンメトリル**：A型インフルエンザの治療薬。

- ・ 水痘1名 予防接種歴あり
（一宮市 後藤小児科）
- ・ インフルエンザが再び増加してきました。A迅速陽性者5名（1歳男2名、6歳女、33歳女、38歳女）
病原性大腸菌感染者（0-1 9歳女と37歳男、0-18 32歳女）
（尾西市 城後小児科）

- ・ 麻疹は2名ともワクチン未接種です
(立田村 谷本医院)
- ・ インフルエンザ FluA(+) 4名、兄弟例あり。ムンプスが幼稚園のクラス単位で流行、ウイルス性胃腸炎多し。アデノ様扁桃炎多し。
(岩倉市 なかよしこどもクリニック)
- ・ 感染性胃腸炎が流行しています。溶連菌感染症の小流行がみられます。インフルエンザ1歳男児(FluA(+))1名ありましたが、流行はいまだ見られません。
(江南市 みやぐちこどもクリニック)
- ・ インフルエンザ微増
(新川町 三輪医院)
- 尾張東部地区
 - ・ 感染性胃腸炎のうちロタ陽性が乳幼児でみられる様になりました(5名)。A型インフルエンザは6名ありましたが散発です。マイコプラズマ肺炎 3歳女
(瀬戸市 津田こどもクリニック)
 - ・ 高熱以外の症状なく全身状態良好で、1~2日で改善する症例が目立ちました。今週は溶連菌感染症が増加しました。その他、水痘、突発症散発、手足口病1例あり。
相変わらずインフルエンザはありませんでした。
(尾張旭市 佐伯小児科医院)
 - ・ アデノウイルスによる流行性角結膜炎あり。
ただの扁桃炎もまだ多い。
(美浜町 愛知県厚生農業協同組合連合会知多厚生病院)
 - ・ ロタウイルス胃腸炎が増えています。インフルエンザは散発
(春日井市 朝宮こどもクリニック)
 - ・ 水痘、ムンプスがみられました。インフルエンザAも2名ありました。感染性胃腸炎も減りましたがまだみられます。
(春日井市 かちがわ北病院)
 - ・ ロタウイルス胃腸炎あり、アデノ咽頭炎あり、インフルエンザ少ない
(小牧市 小牧市民病院)
 - ・ 咽頭結膜炎、感染性胃腸炎多くなりました。伝染性紅斑あり
(小牧市 鈴木小児科)

- ・ 感染性胃腸炎、およびアデノウイルス感染がいまだ流行しています。

(小牧市 志水こどもクリニック)

- 西三河地区

- ・ インフルエンザOIA* 陽性 FluA未実施 2名(19歳女、35歳男)

(豊田市 保見診療所)

注) OIA* : A・B型インフルエンザウイルスを同時に検出する迅速診断キットの一種。ただしA・B型の区別はできない。

- ・ A型インフルエンザ(ディレクティジェン FluA)(5歳女、1歳男、2歳女、1歳男)

(豊田市 星ヶ丘たなかこどもクリニック)

- ・ カンピロバクター 2歳女

(豊田市 やふそ小児科)

- ・ 病原性大腸菌 O-1 4歳男

百日咳 1歳男女 双子

(岡崎市 花田こどもクリニック)

- ・ 感染性胃腸炎が非常に多い

(知立市 宮谷クリニック)

- ・ 10歳男 FluA(+)

(碧南市 永井小児クリニック)

- ・ FluA(+)

(刈谷市 田和小児科医院)

- ・ FluA陽性 インフルエンザ 11歳男

溶連菌感染症 散発。

(西尾市 やすい小児科)

- ・ 異型肺炎 9歳女

溶連菌感染症、水痘が流行しています。

(三好町 三好町立三好病院)

- 東三河地区

- ・ インフルエンザの児が時々でてきました。

(豊橋市 こどもの国大谷小児科)

- ・ 11ヶ月(男)のインフルエンザの児はワクチン2回接種済み。 T
小学校3年4年で嘔吐下痢症流行 1日のみ。約4割の生徒が欠席。
SRSV?

(蒲郡市 蒲郡市民病院)

(1 ~ 3 類感染症の発生状況)

腸管出血性大腸菌感染症患者 1 名。

瀬戸保健所から報告の 15 歳男。2/13 発病、2/14 初診、2/18 診定。

菌型は、0-157 VT1・2 (+)

(全数把握の 4 類感染症の発生状況)

発生はありません。

第 5 週 (平成 13 年 1 月 29 日 ~ 2 月 4 日) の 4 類感染症の全国状況

感染性胃腸炎、A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり報告数が例年にくらべかなり多くなっている。感染性胃腸炎は宮崎県で定点当たり報告数 27 、宮城県で 19 、愛媛県で 16 と多くなっており、年齢階級別に見ると、1 歳をピークに 1 歳 ~ 8 歳までの年齢階級で全体の 64% を占める。麻疹は例年の同時期とくらべ定点当たり報告数がかなり多く、とくに高知県では定点当たり報告数が 4.1 となっており、大分県でも定点当たり報告数が 1 を超えている。これに伴って基幹病院定点より報告される成人麻疹も増加しており、高知県では 15 例の報告があった。麻疹 (成人麻疹を除く) の年齢階級別では 1 歳が最も多く、次いで 7 ~ 12 カ月に多かった。成人麻疹の症例は 15 ~ 29 歳の年齢階級に見られ、約半数が 20 ~ 24 歳の年齢階級に属していた。流行性耳下腺炎と水痘も過去 5 年の同時期と比較してかなり定点当たり報告数が多くなっている。水痘は宮崎県で定点当たり報告数 5.0 と多く、長野、沖縄の各両県でも定点当たり 4 人を超えており、患者発生のピークは 1 ~ 3 歳にある。流行性耳下腺炎は福井県で定点当たり報告数 5.9 、熊本県で 4.3 と多く、患者発生のピークは 3 ~ 6 歳にある。伝染性紅斑の定点当たり報告数が 2001 年に入って漸増しており、過去 5 年間の平均と比べるとやや多い定点当たり報告数となっている。インフルエンザは全国平均の定点当たり報告数が、流行開始の指標と考えられる 1 を超え、流行期に入ったと考えられる。咽頭結膜熱、手足口病は冬季としては例年になく定点当たり報告数が多くなっている。流行性角結膜炎は宮崎県で定点当たり報告数 5.8 と多くなっている。

(Infectious Diseases Weekly Report より抜粋

厚生労働省感染症研究所感染症情報センター感染症情報室提供)